

神石高原町立神石高原中学校 校内研修 学習指導案


授業者 佐伯 知成

日時	令和2年10月22日(水)			
学年・組	第2学年A・B組(男子12名 女子11名 計23名)			
題材名	形、色の挑戦(スチレンボードを使ったレリーフ)			
教科における見方・考え方	○主題を生み出し、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。 ○形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創造的に表現すること。 ○造形的なよさや美しさなどを感じ取り、思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。 ○形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。(共通事項)			
題材で育成する力	○形や色の性質をもとに発想し構成していく上での知的な思考力。 ○多様な表現のよさを味わい、心に潤いを持って生活する豊かな感性。			
題材に係る生徒の状況と指導	発達段階として構想や表現の客観性を気にする余り、存分に個性を出す楽しさを味わえずにいる生徒が多いが、第2学年においては、まず「さまざまな技法」の基礎をもとに「自分の開発した技法」を見つけさせてきた。今回は、それを活かせるなどして、より発展的に個性を引き出させるため、半立体としてつくる要素を取り入れている。関係づける既習事項として、「色の性質」「美的秩序」があり、本題材の中で内容を整理し直して提示し、積極的に活用させる。また、材料の特性や刃物等の用具の適切な使用について理解させ、効果的かつ安全に活動させる。			
題材の観点別評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	①自分らしい表現を求めて目的を持って活動し、その喜びを味わおうとしている。	②線・形の性質、美的秩序、色の性質などを使って表したいイメージを膨らませることができる。	③材料、用具の生かし方を考え、美的感覚を働かせて表現することができる。	④いろいろな視点や感じ方、発想の仕方、知識等を理解している。 ⑤表現のよさや美しさなどを理解し味わうことができる。

探究活動に係る、題材を貫く指導と評価(全12時間)

探究過程	時数	生徒の活動	生徒の思考	教師の支援等	評価規準【方法】	コ	主	ア
課題設定	0.5	自分の感覚に即して素直に表現する「楽しさ」や「開放感」について考える。	自分が表したいことをのびのびと表現したい。	幼児期の造形あそび等を想起させる。				
情報収集	0.5	「イメージの泉」としてまとめられた資料を鑑賞する。	どの作品も他に類を見ない。 作家は、何を考えながらつくったのだろう。 どのようにすれば、こうした表現ができるのだろう。	紹介資料(画像)は、強烈な個性表現が見られる作家に絞っておく。(ニキド サンフィル、草間彌生) 常識にとらわれない自由な感覚を大切にさせる。	④ 【ノート】			
整理分析	3	既習事項の内容から活用のヒントを探る。 無意識の表現を試みる。 ことばのイメージを広げる。 作品の材料の特性や用具の取り扱い方法を理解する。 配付する材料が有効に使えるような作品例を鑑賞する。	習ったことを表現に使っているところはどこか。 考えて描くことにはない楽しさがある。 頭を柔らかくくしないとうまくいかない。 使ったことがないので何となく不安がある。 板状の部材の組み立てが難しいかもしれないが、楽しそうだ。	色彩や形から受ける感じについて分類させる。 美的秩序を意識させる。 オートマティズムの手法を体験させる。 ことばの連鎖(連想)をつくらせる。 実際に持たせたり触らせたりして慣れさせる。 作品画像を鑑賞させる。(ジャン アルプ、フランクステラ)	① 【行動観察】 ④ 【ノート】 【定期テスト】			
まとめ創造表現 実行	7	作品に表したいキーワードを決める。 構想をスケッチ(配色の概要を含む)する。 【本時:1/7】 作品を構成する部品(パーツ)の形をスチレンボードに描いて切り取る。 部品を彩色する。 部品(パーツ)に高低差を付けてレリーフ状に接着する。	自分にピンとくるものにした。 誰も思いつかないものにした。 材料の特性や用具の使い方に気をつけよう。 筆塗り以外の方法を使いたい。 部品の上下関係をいろいろ試してから決めたい。	直感を大切にさせる。 場面や事物の説明表現になりやすいので大胆さを意図した助言を行う。 注意点は、表示して見られるようにしておく。 「さまざまな技法」を駆使させる。 橋脚状の部材を使い、部品(パーツ)を載せる要領を掲示しておく。	① 【行動観察】 ② 【スケッチ】 ③ 【作品】			
振り返り	1	作品を展示し、相互鑑賞する。	自分にはないよさを感じ取ることができた。 個性的にできることが楽しかった。	評価の視点を示しながら、率直に味わわせる。 次の題材を予告する。	⑤ 【ノート】			

本時の授業展開(5/12時間目)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 くんくん time(復習)			
①各自の自主学習。 ②フランクステラの作品にタイトルを付けよう。(直感で) ※学習係の指示による。	画像を大型ディスプレイで提示させる。 グループ内で交流させる。 		
あいさつ、目標の確認。 ※学習係の指示による。			
2 つかむ 見通す			
③前もって考えておいた「自分が表したい感じ」のキーワードを確認する。 ④「自分の表したい感じ」を形にしていくためのスケッチの要領を知る。 ・スケッチの仕方(形の描き方)を理解する。 ・独自の感覚を尊重し、楽しく開放感が得られるように気持ちを整える。	ワークシートへの記入を確認させる。 抽象化した形から受ける感じの類型(既習)を再掲示しておき、形づくりのヒントにさせる。 スケッチブックの約7割の面積が作品のベース板になると考えて鉛筆でスケッチさせる。(レリーフの部品がベース板からはみ出して構成されることになる。) 集中して取り組ませるために、確認事項の理解の時間を確保し、不明な点は、個に応じた援助を行った上で、余裕を持って作業時間へ移行させる。 本時の学習活動の流れを掲示しておく。		
3 課題解決			
本時の目標(本時の課題)『「表したい感じ」を人並み外れた形に生まれ変わらせよう。』			
⑤目標を再確認する。 ⑥スケッチブックへスケッチする。 ⑦他の表現から学ぶ。 ⑧巡回鑑賞の気づきをノートへ記入する。 ⑨スケッチを再開する。	ラフスケッチさせる。 次の状況が見られる場合、意図を確認した上で、必要に応じ軌道修正させる。 □部品が小さい、又は複雑(切断が難しい) □具体物の形に即していたりとらわれていたりして表現が中途半端。 机上にスケッチと「表したい感じ」を記入したワークシートを並べて置かせ、席を立たせて巡回させながら、鑑賞させる。(対話なし。) 次の2点について書かせる。 □他の表現にあったよさ。 □自分の表現の改善点や修正点。 最終的に2種類以上描かせる。	自分らしい表現を求めて目的を持って活動し、その喜びを味わおうとしている。 【行動観察】	
4 振り返り			
⑩本時のまとめをする。 (期待されるまとめ) ・ありきたりな形にならないようにするためには、形の単純化や抽象化のほかに崩したり大きさに表現したりする方法がある。 ・オートマティズムや分割線によってできる形を利用する方法がある。 ・受ける感じは、線種によって分類できるので、表したい感じに応じたふさわしい線種がある。			
⑪本時の振り返りをする。 (期待される振り返り) ・自分では、誰もまねが出来ない大胆なものをつくれたと思う。巡回したときに同じような感じの人が数人いたので、もっとがんばりたい。別の方法が使えないか自分なりに考えてみる。 ・形は思い切ったのびのびと描けたと思う。でも、「表したい感じ」は、〇〇なのに見た感じで何かが足りない気がしている。 ・どうしても具体的な形にとらわれてしまい一歩踏み出せない。ラフスケッチの感覚はクロッキーの表現に似ているので、その感覚でもう一度家でやり直してみようと思う。 【予習内容】ワークシートの部品取りの説明文を読んでおく。			
【予習内容】ワークシートの部品取りの説明文を読んでおく。		次時は、スケッチの仕上げに向かうことを予告する。	

